

本館1階ホスピタルアート パッチワークを展示しました。



本館1階ホスピタルアートコーナーでは、学生団体「ALLEY JAPAN」によるアート作品を定期的に展示しています。

6/27から、矢津利子（当院患者）さんによる、パッチワーク作品を展示しています。矢津さんは60歳から独学でパッチワーク作りをはじめました。個展を開催する他、数々の雑誌にも掲載されています。北國新聞様、中日新聞様にも取り上げられました。是非ご覧ください。

大作で入院中の恩返し

病院を芸術作品で彩る「ホスピタルアート」に取り組み金沢市小坂町の浅ノ川総合病院で27日、新たに多彩な色づくいのパッチワークキルト作品11点が飾られた。今年1月まで入院していた矢津利子さん(94)が、主治医や看護師らへの感謝の気持ちを込めて出品。「私が生きている間に見てほしい」とおちゃめに話した。(奥田哲平)

浅ノ川総合病院 94歳、矢津さんが展示

同病棟では昨年九月から一階廊下を展示スペースとし、高校生らの作品や友誼品などを展示。それを機会に矢津さんが出品した。矢津さんは四人の子供と一家の手芸に没頭した六十歳のころからパッチワークキルト作りを始め、現在は「パッチワークキルト作り」を制作している。一筆一筆は、大小の花や動物の形、色とりどりの布を縫い合わせた。縫い針は、縫い針の音も聞こえる。縫い針の音も聞こえる。縫い針の音も聞こえる。

パッチワーク11点「私が生きている間に見て」

「パッチワークキルト作り」は、縫い針の音も聞こえる。縫い針の音も聞こえる。縫い針の音も聞こえる。

病院にパッチワーク 矢津さんの作品飾る

金大生らでつくる学生団体「ALLEY JAPAN」は27日、小坂町の浅ノ川総合病院にパッチワーク作品11点を飾った。同病棟に通院する矢津利子さん(94)は「浅野本町1丁目」が約160坪四方の古布に花のアプリケや「こしもありがとう。らいねんもよろしくね」と縫い付けた作品などを寄せ、大勢の人が見入った。約2カ月間、展示される。

展示された矢津さんの作品

小坂町の浅ノ川総合病院